

## 今、化学産業がなすべきこと

中 江 清 彦\*



### 1. はじめに

住友化学は、17世紀から続く事業活動の中で育まれた住友の事業精神、「信用を重んじ、确实を旨とし、浮利に趨らず、自利利他公私一如、など」を住友のDNAとして連綿と受け継ぎ、1913年に愛媛県別子銅山の銅精錬の際の排ガスによって生じた煙害を解決するために、その原因である亜硫酸ガスから肥料を製造することを目的として設立されました。亜硫酸ガスという環境問題の解決と農産物の収量拡大を通じて豊かな暮らしに貢献するという社会貢献の実行、これが当社のはじめです。以後、工業薬品、染料、医薬品、農薬分野に進出し、1958年には住友の先取の気風を発揮して、日本でいち早く石油化学分野に進出するなど、一貫して日本の化学産業とともに歩んで参りました。2010年には経営ビジョンを策定し、「(1) グローバルカンパニーとしての経営基盤・事業規模の更なる強化・拡大、(2) エネルギー・食料問題の解決など、グローバル社会の持続的な発展に貢献、(3) 企業価値の継続的な拡大」という三つの目標を掲げ、それを達成するための戦略として、「技術戦略」「気候変動対応戦略」「事業ポートフォリオ戦略」という三つの戦略を立て、経営ビジョンの達成に向けて邁進しております。当社は化学産業が様々な素材や製品を広く産業や社会に提供することで、化学を通じて社会に貢献していくことを目指しております。

### 2. 21世紀における化学産業の役割

20世紀の日本の化学産業は戦後欧米技術の導入により石油化学工業を興し、触媒や製造プロセスの改良による高効率化などの技術開発を続けてきました。この間、急激な産業の発展に伴う公害問題や2次にわたるオイルショックに見舞われましたが、日本の化学産業はこうした大きな課題を克服し、環境の改善を達成してきました。特に、自動車、家電、IT企業に牽引され、いわゆる摺り合わせ技術により化学産業の国際競争力の強化とともに、自動車、家電をはじめとする関連産業の国際競争力強化を底辺で支える役割を演じ、関連産業とともに発展してきました。

一方、21世紀は、地球温暖化をはじめとする環境・資源・エネルギー問題や水・食料の枯渇問題など地球規模での課題が顕在化してきております。これら地球規模の課題に対して、化学産業は革新的技術の開発により本課題の解決策を見出し、新たな産業の創出や将来に向けての社会の持続的な発展に貢献することが求められています。太陽光発電や各種二次電池開発に見られるように、製品や産業のプロセスの根幹部分に化学反応や化学素材が必須な機能として位置づけられるようになり、新たな化

\* 住友化学株式会社 取締役 専務執行役員 Kiyohiko NAKAE

## 本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

学技術が諸産業の発展の核として活躍するような、そのような時代が到来しつつあり、化学産業の責任は重大です。特に地球環境問題を解決することは、化学産業としても最重要な課題であり、例えば環境や人にとって有益な化合物や高機能な化学品を作り出すことで、より新たな価値を作り出すと同時に、現在顕在化している地球環境問題に対して一つの解を与えるような、「もの作り」が今、化学産業には求められています。

### 3. 化学産業における知的財産活動

上でも述べましたように、化学産業の使命の一つは「もの作り」であり、新たな化合物、新たな化学品を作り出し、社会の持続的発展に寄与していくことであります。作り出された新たな「もの」は、化学産業だけでなく各種産業に利用され価値を見出されていくと共に、また付加価値のある新たな「もの」を産出し、社会や人間にとって有益なものとなっていきます。これによって化学産業をはじめとする各企業は収益を上げ、新たな開発に取り組み、さらにより良いものを作り出し、社会に貢献していきます。このようにイノベーションにより企業は発展し、さらに新たなイノベーションを生み出すことが出来ます。新たなイノベーションを企業発展へと結びつける一つ的手段として知的財産があり、知的財産活動は企業の発展・収益の最大化を目指すための活動と位置づける事が出来るのではないのでしょうか。「もの作り」を行う化学産業にとっては、新たに産出した「もの」は企業にとっての現在の収益の源であるとともに、将来の収益の源泉となります。この源をいかに活用し、次の事業戦略、研究戦略の布石としていくかを常に考える必要があります。その思考のなかで知的財産活動を考えておかねばなりません。事業戦略、研究戦略、知財戦略、は三位一体の活動といわれて久しくなりますが、本来、事業戦略、研究戦略を具現化し、担保し、将来に繋げて行くことこそが知的財産戦略であると考えます。化学産業における知的財産戦略はまさにこのイノベーションのサイクルを回すための重要な手段です。このような知的財産活動を実行することで、21世紀における化学産業が果すべき役割を果たすことが出来ると考えております。

### 4. 終わりに

昨今、理系離れ、化学離れが言われております。しかしながら21世紀は化学の時代であると自負しております。そうなるためには、化学が直面する、技術的なさまざまな課題・困難を乗り越え、新たな「もの」を産出し、改良し、発展させ、さらにまた新たな「もの」を産出す、という化学の使命とその面白さを具現化しなければなりません。このような化学の使命を通じて社会に貢献すべきであり、また貢献できるものと信じております。